

仙台市児童養護施設等入所児童就業支援・アフターケア事業 平成 29 年度のまとめ

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ

1. 事業の目的

児童養護施設等入所児童が、将来的に自立して生活が営めるよう、就職支援、退所後のアフターフォロー体制を構築し、社会的自立に向けた支援を行う。

2. 実施主体

実施主体：仙台市

受託団体：仙台市児童養護施設等入所児童就業支援・アフターケア共同体

仙台市児童養護施設等入所児童就業支援・アフターケア共同体は、「特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ（以下CLみやぎ）」と「一般社団法人パーソナルサポートセンター（以下PSC）」で構成。

3. 事業内容

(1) 概要

仙台市が所管する児童養護施設で養護を受けている児童及び既に退所した者。また仙台市による里親委託児童及び里親の養育から自立した者。年齢は概ね中学生から退所後 25 歳くらいまでの者。

(2) 支援対象者

①施設入所児童に対する就業支援

②施設を退所した児童に対するアフターケア

4. 平成 29 年度事業実施期間 (A) 平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日

(B) 平成 29 年 7 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

5. 平成 29 年度事業概要

(1) 運営体制

①事業実施にあたり、CLみやぎとPSCの担当者会議を定期的で開催した。

②年度後半より、仙台市との定例打合せを月に 1 回実施し、情報共有をしながら事業を実施した。

③事務局を置き、常勤職員 1 名と、非常勤職員 2 名、その他補助スタッフによって事業を実施した。

④仙台の弁護士で構成する「子どもリーガルサポートチーム：略称CLT」が協力団体として参加した。

(2) 事業広報

①年度始めに、対象施設を訪問し、事業について連携をお願いした。

②事業ホームページを開設した。

(3) 事業実施状況

1) 施設入所児童に対する就業支援

①ソーシャルスキルトレーニング（以下SST）の実施

児童養護施設等に入所している中学生・高校生に対し、施設等からの自立後に安定した生活を営むことができる力を身につけるため、SSTを実施した。

<実施にあたって留意したこと>

(ア) 施設へのアンケートにより、希望するSSTを優先して実施した。

(イ) 年度前半の職業教育の科目については、職場見学・体験等と組み合わせて学ぶこと

で実体験を通じた学習ができるように工夫した。

<実施結果> 25回実施 参加者のべ104名（全期間含める）

科目	回数	参加者数
生活習慣「インターネット・SNSについて」	3	9
生活習慣「社会人としての生活・飲酒・喫煙・デートDVと幸せな男女交際」	1	9
生活習慣「性のこと・妊娠から出産まで」	3	29
生活習慣「デートDVと幸せな男女交際」	2	6
職業教育「様々な業種・職種についての理解」 「やりたいこと探し・職業選択について」	1	15
金銭教育「契約全般、社会保険・税金、労働トラブルの実態と予防」	1	6
金銭教育「生活費・家計管理の仕方」生活習慣「食生活」	1	3
金銭教育「契約全般、リスク管理」	1	3
金銭教育「契約全般」※1回は施設側の都合でキャンセルとなった。	2	3
金銭教育「契約全般、生活費・家計管理の仕方」	3	7
「様々な業種・職種についての理解」	5	10
「自己表現方法の取得」	2	4
合計	25	104

②職場見学・体験の実施

児童養護施設に入所している中学生・高校生に対し、職業観を育成する研修を実施し、関係機関の協力を得て、見学・体験の機会を設けた。

<実施にあたって留意したこと>

- (ア) 一人ひとりの課題や状況に応じた内容となるよう、各事業所への協力要請を行った。
- (イ) 基礎的就労支援を一人2～3ヵ所確保するために、各事業所への説明を充実させた。
- (ウ) 就労に向けた意欲の醸成や基本的なスキルを習得させるために、実践的就労支援を行った。
- (エ) 個別の支援が必要な施設入所児童には、事前の研修を行い、同行しながら手厚いサポートを行った。

<実施結果> 16回実施 参加者のべ25名（全期間含める）

実施月	受入事業所名	内容	回数	人数
6月	株式会社 AZOTH	体験 見学	2	2
	株式会社コージーライフ	体験 見学	2	2
	社会福祉法人太陽の丘福祉会 仙台ローズガーデン	見学	1	1
	公立学校共済組合仙台宿泊所 ホテル白萩	見学	1	3
10月	公立学校共済組合仙台宿泊所 ホテル白萩	見学	1	1
	社会福祉法人まほろば 特別養護老人ホームまほろばの里 向山	見学	1	2
	株式会社コージーライフ	見学	1	1
	特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ	体験 見学	1	2
2月	公立学校共済組合仙台宿泊所 ホテル白萩	見学	1	1
3月	石黒建築工房	見学	1	4
	特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ	体験	4	6
合計			16	25

2) 施設を退所した児童に対するアフターケア

退所後、一旦就労し、その後失業した利用対象者への再就職支援を行う。施設または個人から相談を受け、ハローワークへの同行や、「仙台市生活自立・仕事相談支援セン

ター」と連携し、再就職への支援を行う。
また、退所後の交流の場として、交流会を企画した。

<実施にあたって留意したこと>

- (ア) 施設と連携し、アフターケアの必要な者の把握に努めた。
- (イ) 退所した児童同士の交流、また、共同体の職員と交流を深めてもらうために、交流会を企画した。

<実施結果>

退所後の相談先として認識してもらうよう、登録カードを作成する等して働きかけた結果、7名の登録があった。
交流会は4回実施し、5名の参加があった。

3) 会報発行・ホームページについて

29年度は、会報第3号・第4号を発行し、関係機関に送付した。
また、年度末に事業のホームページを作成した。今後、事業広報のツールとして利用していく。

4) 相談事業

年間を通して、93件の相談があった。(日程調整等も含む。)

月	面談	電話	メール	その他	月合計
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
8	5	2	0	0	7
9	6	3	0	0	9
10	5	3	1	8	17
11	5	2	0	0	7
12	1	1	11	1	14
1	0	1	0	0	1
2	2	0	5	0	7
3	7	4	19	1	31
合計	31	16	36	10	93

※その他：ケース会議や、弁護士の先生に動いてもらった分を含む。

6. 事業の成果と課題

(1) 施設との連携について

施設毎に、共同体と連絡を取り合うために窓口となる職員を配置していただいたため、毎回決まった職員の方と連絡を取り合い、事業を進めていく中で、少しずつ信頼関係を築くことが出来た。

しかし、全ての施設職員には周知されていない場合が多いため、引き続き事業広報を進めていく。

(2) S S T、職場見学・体験について

S S Tについては、年度始めに各施設に改めて科目の希望を取ったところ、昨年度と同じように、「スマホ・SNS・インターネット」の科目が希望にあがる施設が多かった。

昨年度も各施設で実施した科目ではあったが、施設職員の先生方にとって、一番学んでほしい科目のようで、今年度も実施した。

施設によって参加人数に差はあるが、日程を早めにお知らせしておけば、部活やバイトよりも優先して、S S Tに児童を参加させようとする施設もあることが分かったため、今後も各施設の方針や特徴に留意しながら進めていく。

職場見学・体験については、体験終了後にアンケートをとったところ、次はどのような職場を見学したいか等について記入した児童も数名いたことから、次回の職場見学・体験への期待が見受けられたのが良かった。

現在は、見学をお願い出来る事業所の数は少ないが、児童から「このような職場を見学したい」という希望も出てきているため。今後は児童の希望にあったような見学先の開拓についても考えていく。

(3) ケースについて

関係機関からの相談や、施設職員からの打診があったが、実働には至らなかった。

しかし、本事業の存在によって、施設側の相談先の選択肢が増えたことが伝わってきている。そのことが今年度の成果としてあげられる。

(4) アフターケアについて

今年度は、テーブルマナーを学ぶことを兼ねた交流会や、ボウリングやカラオケ等をしながら最近の生活についてお話をする交流会等、工夫をして実施した。

案内は郵便で送ったが、回答のない児童も何名かいた。そのような児童に今後どのような方法で事業や交流会のようなイベントを広報していくか、課題が残った。

(5) 会報について

実施期間の間に、施設職員で構成されているネットワーク会合で会報を配布出来たことは、事業の周知につながった。